

宇都宮市立富士見小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学ぶ意欲については、「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」と回答した児童の割合は67.9%で、県の平均を6.6ポイント上回った。また、「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」と回答した児童の割合は88.1%で、県の平均を5.4ポイント上回った。学習に対して興味があり、学習に向かう姿勢が定着している児童が多いことから、授業の中でも自力解決の時間や友達同士で話合って考えを深める時間を取るなどして、意欲が継続していくよう指導したい。

○学校での様子については、「クラスは発言しやすい雰囲気である」と回答した児童の割合は88%で、県の平均を8.2ポイント上回った。また、「授業であつかうノートには学習の目標とまとめを書いている」と回答した児童の割合は75.4%で、県の平均を16ポイント上回るとともに、「授業を集中して受けている」と回答した児童の割合は64.9%で県の平均を8.3ポイント上回ったことから、授業の受け方のルールが定着しているので、自分の意見が言いやすい雰囲気が形成されていると考えられる。今後も、学級の中で互いに認め合う雰囲気を大切に、自分の良さに気付かせ自信をつけさせていきたい。

○教科の学習については、「算数の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている」と回答した児童の割合は79.9%で、県の平均を7.8ポイント上回り、「算数の授業で問題のとき方や考え方が分かるようにノートに書いている」と回答した児童の割合は89.5%で、県の平均を7.4ポイント上回った。また、「自然やうちゅうなど、科学の内容をあつかっているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ」と回答した児童の割合は84.3%で、県の平均を10.6ポイント上回るとともに、「理科の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている」と回答した児童の割合は81.4%で、県の平均を10.4ポイント上回ったことから、数学や科学に関する興味があり、知識を得たり学んだりしたことを生活に生かしたいと思っている様子がうかがえる。今後も授業の中で体験的活動を多く取り入れ、興味・関心を伸ばすような指導をしていきたい。

●問題解決力については、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」の肯定的回答は55.6%で、県の平均を3.1ポイント下回った。本学年の児童は、自分の意見を発言することには肯定的な回答をしている。しかし、自分の考えをまとめ文章で表現することに抵抗感や苦手意識を持つ傾向にあると考えられる。また、個人差が非常に大きい項目でもあった。苦手意識がある児童への個別指導を取り入れ、文章でのまとめ方の練習を繰り返し指導していきたい。

●読書については、「1か月に、何さつくらい本を読みますか」の問いに対して、「11さつ以上」と回答した児童の割合は13.4%で、県の平均を12.8ポイント下回った。また、「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDなどを見たり、聞いたりしますか」の問いに対して、「4時間以上」と回答した児童の割合は22.4%で、県の平均を7ポイント上回った。普段本を読むよりも、テレビ等を視聴する時間が長いようなので、学校でも図書館の利用や朝の読書活動で本に触れ合えるよう指導していきたい。